

本願寺常如上人から一字を興へられたに因ると傳へる。

ジヨウトクジ 常徳寺 羽咋郡鹿頭に在つて、眞宗東派に屬し、蘇陀山と號する。

ジヨウトクジ 淨徳寺 石川郡徳丸に在つて、眞宗東派に屬する。もと道場であつたが、明治十二年六月寺號の公稱を許された。

シヨウトクシヨシヤシラベチヨウ 正徳諸社調帳 正徳二年前田綱紀が、領内の神主・社僧・山伏及び邑民に、その奉仕する社祠の由來を書上げしめたもので、十村役裁許の村を一冊に仕立て、あつた。

シヨウトクタイシキ 聖徳太子忌 眞宗寺院などで聖徳太子の法會を營むことは、藩政時代では毎年二月廿二日に於いてせられた。

シヨウトクワカンシヨウシユウロク 正徳和韓唱酬録 附南海唱和録共に一冊。伊藤祐之著。正徳元年九月朝鮮信使の來朝した時、著者はその接伴の任に當つた慈照院祖縁に隨伴して、大坂に信使を迎へ、一行と共に江戸に往復した。本集はその時著者と學士李東郭等と談論唱酬した筆語及び詩賦を收めたものである。又附録の南海唱和録は、著者がその後京坂に留り、泉州の唐金梅所、紀州の祇園南海等を訪うて成つた詩と、南海の送伊藤子序の一文を載せたものである。

ジヨウドジ 淨土寺 石川郡安吉にあつて、眞宗東派に屬する。淨土寺は大窪源左衛門家長の法名で、その家老大窪伯善がこの寺を創立したといふ。門内にかね石と稱する黒色美麗のものが、その形甚だ大きくないが、重さ米一石二斗に當るといはれ、舊六月當寺虫十の際青年等の力持をするに用ひられる例であつた。

ジヨウドシユウカイソキ 淨土宗開祖忌 藩政時代には正月二十五日に行はれた。宗祖圓光大師(源空)に對する報恩會である。

ジヨウドシユウジン 淨土宗寺院 金澤の如來寺が淨土宗の頭寺であつて寺領を受け、藩政時代末期ではその末派に屬するもの加賀・能登に三十五ヶ寺を數へた。又大聖寺藩に屬する淨土宗寺院は、三ヶ寺であつた。その寺號は左の通りである。

淨土宗

○加賀藩

觸頭

如來寺 金澤小立野拜領地。寺領二百石

信入寺 如來寺塔頂

攝取院 同上

如來寺觸下

大蓮寺 金澤野町拜領地

成覺寺 金澤蛤坂拜領地

妙慶寺	金澤蛤坂拜領地	玄光院	金澤泉寺町地子地	淨安寺	金澤六斗林拜領地	大圓寺	金澤野田寺町拜領地	極樂寺	金澤野田寺町拜領地	永福寺	金澤野田寺町拜領地	覺源寺	金澤法島河原地子地	法然寺	金澤川上新町地子地	法船寺	金澤法船寺町拜領地	安樂寺	金澤八坂拜領地	了願寺	金澤觀音下町地子地	壽經寺	金澤觀音町地子地
-----	---------	-----	----------	-----	----------	-----	-----------	-----	-----------	-----	-----------	-----	-----------	-----	-----------	-----	-----------	-----	---------	-----	-----------	-----	----------

玄門寺 金澤卯辰地子地

誓願寺 金澤卯辰地子地

心蓮社 金澤山ノ上町拜領地

善導寺 金澤山ノ上町拜領地

光覺寺 金澤山ノ上町拜領地

法界寺 能美郡小松地子地

誓圓寺 能美郡小松地子地

海禪寺 石川郡宮腰地子地

西光寺 羽咋郡富來村地子地

西光寺 鹿島郡所口拜領地

常通寺 鹿島郡所口拜領地

寶幢寺 鹿島郡所口拜領地

西念寺 鹿島郡所口拜領地

法藏寺 鹿島郡所口拜領地

天德寺 鳳至郡宇出津村地子地

大乘寺 鳳至郡宇加塚村地子地

海藏院 鳳至郡藤波村地子地

大蓮寺 珠洲郡飯田村地子地

新善光寺 珠洲郡眞脇村地子地

○大聖寺藩

松緣寺 江沼郡大聖寺町

正覺寺 江沼郡大聖寺町

三光寺 江沼郡那谷村

ジヨウニチジ 上日寺 珠洲郡眞脇に在つて、眞言宗に屬する。もと天台宗千手院といふたが、貞享四年六代應盛の時改宗して鷹王山上日寺となつた。能登名跡志に『鷹王山上日寺と云密寺あり。この寺昔百合若丸といふ人の寵愛ありし鷹、海中にて死にしに、此磯に寄り、その菩提の爲に建てし寺也といへり。本尊千手觀音は、春日の作にて靈像也。七ヶ年目宛に開帳あり。』と見える。寺藏木造上品下生阿彌陀如來座像体高九九九、木造金剛界大日如來像体高九二、木造增長天像体高一米三六、木造地藏菩薩立像体高一米六、木造は並びに平安末期の作、木造千手觀音立像体高三九、木造は鎌倉時代の作、木造弘法大師像体高八五、木造は鎌倉末期乃至室町初期の作と認められる。

シヨウニヨ 勝如 河北郡二俣本泉寺宣祐如乘の室。寛正元年如乘の示寂するや、勝如三十三歳を以て尼となつた。勝如は本願寺五代諱如の第四子周覺玄眞の女で、頗る才幹あり、且つ男子がなかつたから、如乘の後を承けて自ら越中井波の瑞泉寺と、加賀二俣の本泉寺を董したが、寛正六年蓮如の二子蓮乘の來るに及んで之に讓つた。加賀松尾・越中土山兩坊も亦勝如の創立する所。明應四年八月二日寂、六十八歳。

シヨウニカウド 上人河戸 藩政の頃遊行上人回來の時、能美郡串茶屋から乘船し、柴山瀆を越えて、江沼郡伊切に上陸し、實盛塚に廻向するを例とした。この發著の所を、いづれも上人河戸と名づける。歸路また乘船して、動橋河口から大聖寺に赴くを順路とした。

ジヨウネン 乘念 一向宗の僧で、江沼郡福田の人。蓮如の帖外御文八に『乘念といへる法名をよく／＼かんがへ見れば、われ彌陀如來の一念十念によりて、大悲の願船に乗ずといへる道理にかなふて殊勝なり。』と見える門弟である。文明五年十月の頃から遠例であつたが、吉崎への出仕を怠らず、霜月の報恩講にも參詣し、十二月四日六十歳を以て往生した。

シヨウネンジ 正念寺 江沼郡小嶺に在つて、眞宗東派に屬する。もと月津に居て、明